

個別적인視点からの アプローチ

小学校中学年 これってだれのしごと？（女性の人権）

小学校高学年 人にやさしい夢のアイデアグッズ（障害者の人権）
文字を識り、心のバリアフリーを（同和問題）

中学校 ちがいを豊かさに～住みよいまちをめざして～（外国人の人権）
明るい未来に向けて（同和問題）

高等学校 ハンセン病を知っていますか？（HIV感染者・ハンセン病患者等）
よりよい高齢社会の実現をめざして（高齢者の人権）

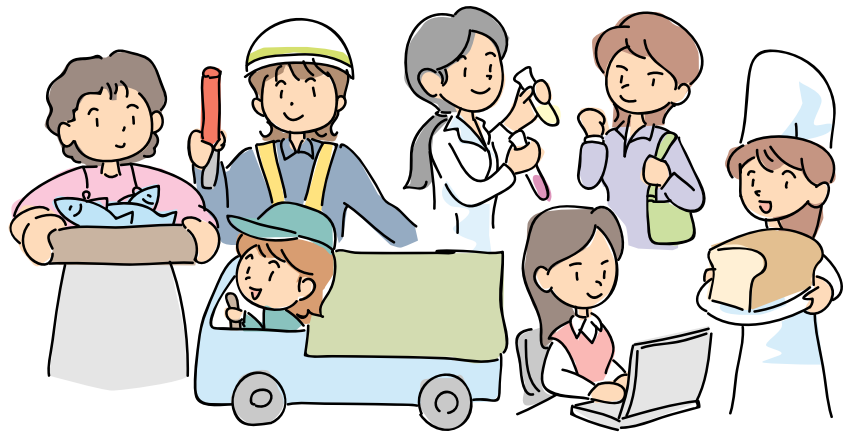
これってだれのしごと？

小学校3・4年

女性の人権

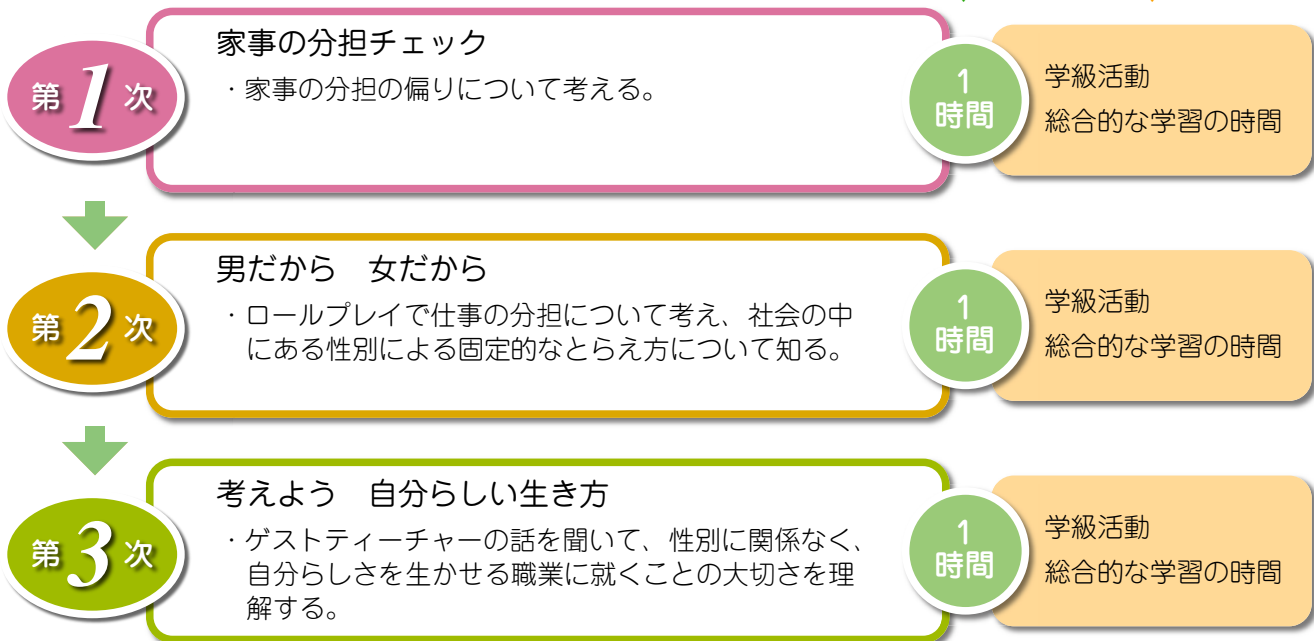
単元の目標

- 身のまわりにある人権に関わる問題に気づき、一人一人知恵を出し合って解決しようとする。
(2-⑦具体的な人権課題)



単元の流れ

時数 教科・領域等



第1次 家事の分担チェック

目 標

- ・性別による固定的な役割分担意識があることに気づく。(単元目標1)

準 備 物

- ・掲示用シート①「食事の後かたづけはだれ」
- ・シール(学級の数分)
- ・資料①「家庭における家事ぶんとん」



展 開 【1】

学 習 活 動

1

家事にはどんなものがあるか発表する。

2

自分の家で「食事の後かたづけ」をしているのは男の人が、女の人かを考えて、掲示用シート①「食事の後かたづけはだれ」にシールを貼り、気づいたことを話し合う。

3

資料①「家庭における家事ぶんとん」を見て、説明を聞き、気づいたことや考えたことを書く。

4

資料①について、感じたことや気づいたことをグループで話し合い、発表する。

支 援 及 び 留 意 点

- ・掃除、洗濯、食事の準備・後かたづけなど家庭でしなければならないことを考えさせる。
- ・誰もができる「食事の後かたづけ」であっても女性がしていることが多いことに気づかせる。
- ・自分の家や学級の実態だけでなく、国の実態として、家事の分担に性別による偏りがあることに気づかせる。
- ・男、女という視点で、家事分担に偏りがある理由について考えさせる。

評 価 規 準

固定的な役割分担に気づくことができる。

【技 能】

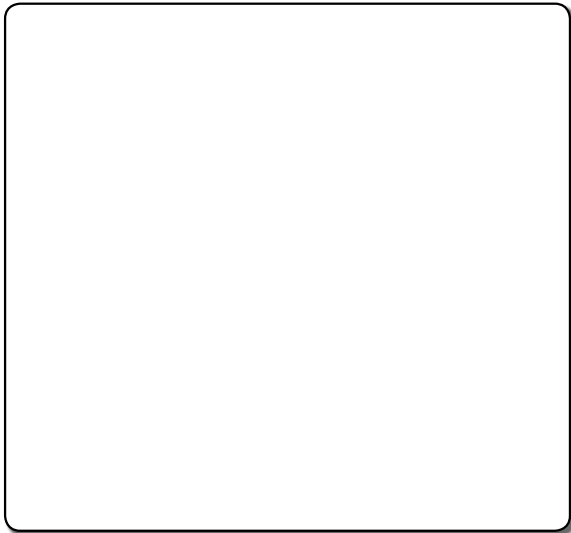
ポ イ ン ト

- 性別による家事の分担の偏りについて考えることをとおして、普段当たり前に思っていることにも、思い込みや固定的な考えがあることに気づかせましょう。

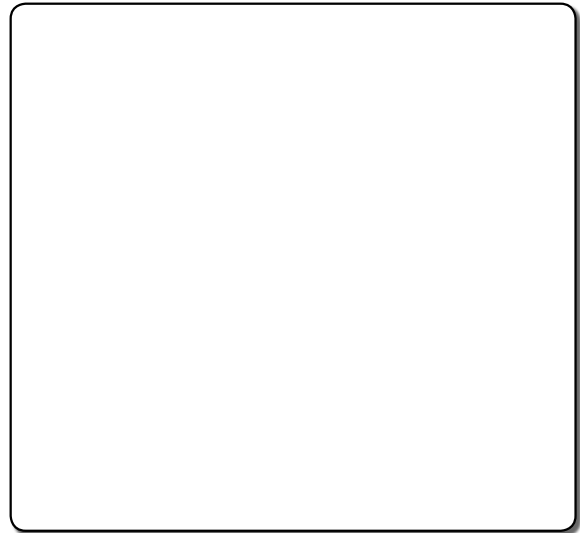
【1】 掲示用シート①

「食事の後かたづけはだれ」

みなさんの家庭では食事の後かたづけは男の人がしていますか、女の人がしていますか。男の人がしている場合は、下の男のらんに、女の人がしている場合は、女のらんにシールをはりましょう。



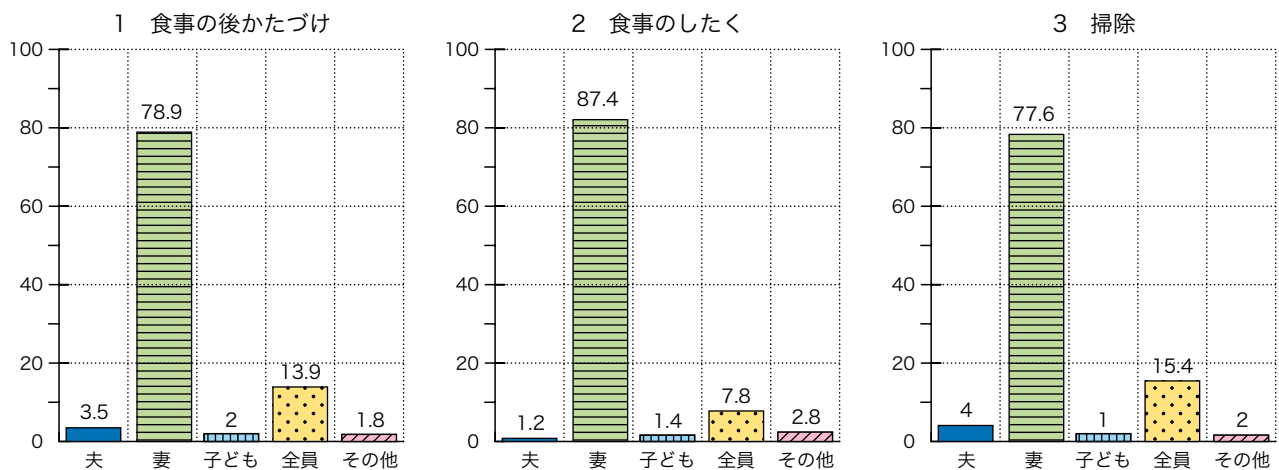
男



女

【1】 資料①

「家庭における家事ぶんたん」



上のグラフを見て、気づいたことや考えたことを書きましょう。

出典：「男女共同参画社会における世論調査」（平成 16 年 11 月調査）

第2次 男だから 女だから

目 標

- 自分の生活の中に「男だから」「女だから」という固定的な考え方があることを知る。(単元目標1)

準 備 物

- ・男性と女性のペープサート
- ・ロールプレイ用の台本「その時あなたは…立場かわれば、わかる相手の気持ち」(『気づく・学ぶ・広げる 人権学習』P60)

展 開 【2】

学 習 活 動

1

男女混合で4～5人のグループに分かれる。

2

グループでロールプレイを行う。

3

ロールプレイをした感想を全体で発表する。

4

自分の生活の中に、「男だから」「女だから」と決めつけた考え方がないか話し合う。

支 援 及 び 留 意 点

・各グループに男女のペープサート1組と台本を配る。

- ・全員に行わせる。
- ・男子に女性役、女子に男性役を演じさせてもよい。
- ・女性役は働いている女性の家事の負担感をどのように伝えるかを考え、家事の負担を男性に納得させるように演じさせる。
- ・男性役は家事をしなくても許される理由を考えながら演じさせる。

・役を演じたときの気持ちやロールプレイを見ていて、感じたことを話し合わせる。

- ・自分の生活を振り返らせ、自分が言われたことや言っているのを聞いた経験がないか、考えさせる。
- ・持ち物の色、言葉遣い、衣類等について考えさせる。
- ・TV、映画、本等も含めて幅広く考えさせる。

評 価 規 準

自分の生活の中に、「男だから」「女だから」という固定的な考え方があることを理解している。

【知 識】

ポ イ ン ト

- ロールプレイは、導入的に扱い、自分の生活の中に、性別による決めつけがないかを考えさせましょう。

第3次 考えよう 自分らしい生き方

目 標

- 「男だから」「女だから」という固定的な考え方にとらわれず、自分の生き方を考えていくことの大切さを知る。
(単元目標 1)

準 備 物

- ワークシート ①「女性？男性？」

展 開 【3】

学 習 活 動

1

ワークシート①「女性？男性？」を見て、それぞれの職業から男女どちらを連想するか考え、記入する。

2

男性を連想した職業名、女性を連想した職業名を発表する。

3

黒板の男性・女性の標示が入れ替わったのを見て、それぞれの職業に就いている人がいるかどうかを考え、発表する。

4

ゲストティーチャーの話を聞く。

5

話を聞いて、気づいたことや考えたことをまとめ、発表する。

支 援 及 び 留 意 点

- 黒板を男性の職業エリア、女性の職業エリアに分けて表示する。
- 学級全体を見て、男性を連想した職業名は黒板の男性職業エリアに書き、女性の場合も同様にする。
- 黒板の性別の標示を入れ替え、考えさせる。
- あらかじめ、いくつか質問を考えさせておく。
- 固定的な考え方にとらわれず、自分らしい生き方を求めていくことの大切さに気づかせる。

評 価 規 準



「男だから」「女だから」という固定的な考え方にとらわれず、自分の生き方を考えようとしている。

【価値 態度】

ポイント

- ゲストティーチャーとして、地域の男性保育士や女性ドライバー等を招き、その職業を選んだ理由や「やりがい」などを話してもらいましょう。
- 性差により、不平等を感じたり、否定的に見られたりしたことなどがあれば、それらをどう克服してきたかについて話してもらいましょう。
- ゲストティーチャーが見つからない場合は、「お母さんの仕事」(『気づく・学ぶ・広げる 人権学習』P55) を活用することもできます。



[3] ワークシート①

「女性？ 男性？」

次の職業名を聞いて、思い浮かぶのは女性？男性？どちらでしょう。

パイロット 〔 〕	弁護士 〔 〕	看護師 〔 〕	バスガイド 〔 〕
大工 〔 〕	気象予報士 〔 〕	ファッションモデル 〔 〕	植木屋 〔 〕
美容師 〔 〕	花屋 〔 〕	車の整備士 〔 〕	医師 〔 〕
ケーキ屋 〔 〕	保育士 〔 〕	消防士 〔 〕	漁師 〔 〕
トラックの運転手 〔 〕	板前 〔 〕	化粧品販売員 〔 〕	幼稚園の先生 〔 〕